

任期を振り返って 各委員長から

米等の価格について

農政対策委員長
松本 廣四

私はよく、米の価格について缶ジュースと比べていますが、主食である米の価格が余りにも安いので驚いてしまいます。

自分にも子供にも120円の缶ジュースはとも簡単に買ってしまうですが、米と比較したらどうでしょう。今年の仮渡金が1万2千円とすれば、玄米4合分に相当します。これでは農家はやっていけないのも無理はありません。

遊休地が増える、後継者がいない等々多くの問題を抱えています。私は、農産物価格の安さが原因だと思っています。こういう事を消費者にも理解して頂

き、そして国としても対応を考えるべきだと思います。日本の原風景である青々とした田んぼは、景観・環境を守り、日本人の主食を賄ってききましたが、あと5年もすればそこかしこに荒地が増える事でしょう。米等の消費減もあります。パン食が増えてきた事や、外食産業が盛んになってきているのにも二因があるかと思われま

子供から大人まで健康が大きな問題となってきたのは、食生活の変化により自分達の料理ではなく既製品を買うことが増えた事により、いろんな成分を体内に蓄積させた結果ではないでしょうか。

日本人の原点に戻って米を主食とし、野菜等は自分で栽培するなり、地産・地消に配慮して、そして、

食育・農業教育もたいへん重要であると思います。日本の米作農家の8割は兼業農家と言われていますが、サラリーマンも子供達ももう少し時間を割いて農業に取り組む事ができればいいと思います。

農家の悲鳴が聞こえてきます。これから、皆で考えていかなければならない大きな問題だと思います。

農家の悲鳴が聞こえてきます。これから、皆で考えていかなければならない大きな問題だと思います。



6月29日管外視察 遊休農地対策事業 飯綱町大豆畑 (飯綱町・飯綱町農業委員会)

「だより」によせて

情報委員長
小野沢 さつき

農業委員会の活動状況や飯山市農業・農政の情報を隔月発行の農業委員会だよ

りを通じて、市民の皆さんに分かり易く読み易くをモットーに編集してきました。

今年最初の号である18年の9月号には新農業委員全員の顔写真、所属委員会や担当地区を紹介し、また、「飯山市農業の課題4回シリーズ」として、「農業経営の改善を目指して」「田んぼをつくってみませんか」「集落営農と農業法人・柳原、外様で新しい動き」「耕作放棄地対策・先祖の田畑を未来に引き継ごう」を取り上げました。

その他、毎年行われる市長建議の要旨、飯山市農業賞受賞者の紹介や、農作業経験が乏しくなっている子どもたちに、より農業に関心をもってもらおうと毎年開催している「農業に関する図画作文コンクール」等を掲載。

特に20年10月の農のまつりと食育フェスティバル

の同時開催時は、小学生から例年よりも多数の応募があった図画や作文で会場内を飾ることが出来ました。また各種団体との懇談会やその時々農業委員会活動の状況も掲載しました。「がんばってます」シリーズでは市内で夢をもって頑張っている7組の農業者の皆さんを紹介し、「あぜ道だより」には、農業委員がそれぞれ普段の生活のなかで見たり感じたりした事を綴ってききました。

今年4月には、全国農業会議所主催の平成20年度第15回農業委員会だより全国コンクールにおいて、「市町村広報活用型の部」で優秀賞を受賞する事ができました。今後とも市民の皆さんに役立つ誌面づくりに努力し、農業振興に寄与できたらと考えています。皆さんからの農業委員会へのご意見等お待ちしております。

活動を振り返って

農業振興委員長
大口 千恵子

「遊休農地対策」として、常盤堤外地の、渡し船の船着場に通じる直線の農道の両側に、野沢菜の種を蒔いています。「面積も増え、毎年菜の花が咲き誇り、景観が良くなった」と評価をいただきました。

「農のまつり」は、寒い冬を間近に控えて、秋の恵みに感謝するとともに、これからの農業を考えてもらう趣旨で開催しています。

初雪が大雪となり中止になった年もありますが、「いやまふれあい市」「ミニスーパーマーケット本町」と同時開催した時には、「おにぎりとはやそば」を3百食も作りました。

「はやそば」は千切り大



「常盤牛蒡」信州の伝統野菜 伝承地栽培認定証伝達式 6月29日農業委員会にて

根をそば粉に混ぜ、火にかけるながら練り団子状にするものです。

地元の農産物を知ってもらういい機会でもあり、食べた人は皆納得する味の「みゆきポーク」や信州伝統野菜認定の飯山ブランドである木島の「坂井芋」と「常盤ごぼう」を売る声にも力が入りました。

丸ごと煮る里芋の煮物、ごぼうの太煮は伝承したい郷土料理だと思えます。

恒例の「下高井農林高校生との懇談会」での、動植物を育て「命を育む農」を体験している生徒達の発表には、少しはにかみながらの力強さを感じました。

「議会の産業振興対策特別委員会」との初めての懇談会では、観賞するための菜の花から、菜種油を搾る菜の花に切り替えたかどうかと提案があり、関わっている方に質問をしてみたところ、ここは「野沢菜の発祥の地（油を搾るものとは種が異なる）」であり、また、「連休に咲かなくては意味がない（開花の時期が異なるため）」と。

訪れてみたくなる観光地

あぜ道だより



農業委員 江口 清重 (岡山地区)

雑草に負けないよ

何年前かに「世界の雑草が日本に集まる」というような放送をテレビで見た。そして、近年いろいろ雑草を畑野に見る。それらは除草剤を使用してもなかなかくならない。

私は特に害草として、キレハイヌガラシという雑草を危惧している。北海道では、ヤチイヌガラシと呼ばれて強害畑地雑草になっている。

アブラナ科で生え始めはナズナ草に良く似ていて、春から秋まで根の不定芽から萌芽繁殖する。始めは根生葉が出

今年の寒雪で、なべくら高原のアスパラガスは例年より15日以上も早く収穫が始まりましたが、菜の花公園の花々は例年通り連休に

て抽苔開花し、黄色い花を咲かせるのでわかり易い。似ている雑草としては、イヌガラシとスカシタ「ボウ」がある。

キレハイヌガラシは白い横走根を持ち、根を切断すると不定芽が萌芽して10〜20センチメートルの深さからも出芽する。トラクターなどで耕起すると刃に根が付着し、別の畑に根付いて繁殖する。これらは20年くらい前より除草を行っているが、くならない。

永年作物の栽培地では特に、除草剤が使用できないので、畑には雑草が大繁殖し作物はできなくなってしまうので大変である。

これと同じ芽を持って繁殖していく雑草に、花や葉がナ

今春、農協本所で開催された「田畑の雑草についての説明会」には大勢の皆さんが参加し会場は満員となった。

見事な花を咲かせました。培った知恵と技を駆使してその時期に菜の花を咲かせた関係者の皆様に感謝しています。



ワルナスビ



キレハイヌガラシ